

キャンプ場で作るカレーは

ネクスト・クリエイション・プログラム 中高生のためのクリエイティブCAMP 2024
ゲゲキャン Dance Performance

ダンス

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

どこの家にもない味がする

[ネクスト・クリエイション・プログラム
中高生のためのクリエイティブCAMP 2024]
主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
企画制作：東京芸術劇場

プロデューサー：杉山幸代*
プロジェクト監修／メディアディレクター：和田信太郎
アートディレクター：山田悠太郎
映像ディレクター：佐藤瞭太郎
撮影マネージャー：齋藤千春
撮影：齋藤千春 安藤美由 田中くるみ
WEBコーダー：海老原瑞穂
コミュニケーション・コーディネーター：阿部七海
広報：川崎映子* 久保風竹* 山口彩* 桑原佳菜子*
票券：奥村和代*
制作：福嶋芙美*
* = 東京芸術劇場

機材協力：東京藝術大学大学院映像研究科 コ本や honkbooks

[ゲゲキャン 公演プログラム]
発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
〒171-0021 東京都豊島区西池袋1丁目8-1
WEB：東京芸術劇場 www.geigeki.jp
ゲゲキャン www.gegecamp.jp
SNS：instagram.com/ge_ge_camp

デザイン：山田悠太郎
写真：齋藤千春
印刷製本：株式会社グラフィック

発行日：2024年9月29日
禁無断複製・転用 ©2024 GE GE CAMP, Tokyo Metropolitan Theatre



ごあいさつ Greetings

ゲゲキャンDance Performance『キャンプ場で作るカレーはどこの家にもない味がする』にご来場いただき、誠にありがとうございます。
東京芸術劇場では、ネクスト・クリエイション・プログラム「中高生のためのクリエイティブCAMP 2024」(通称ゲゲキャン)を東京都との共催で取り組んできました。

「ゲゲキャン」は次世代(12~18歳)が劇場で創造性をひろげるためのプログラムです。東京芸術劇場を「つくる」ための協働の場と捉えて、舞台芸術で活躍する表現者や専門家と、表現力を共に高めあいながら創作活動を行います。「芸劇(東京芸術劇場)」を「芸術表現」のための「広場 campus」にしたいというメッセージが、「ゲゲキャン(ゲイゲキ×ゲイジュツ×キャンプ)」という名称に込められています。

本公演に出演するゲゲキャン・メンバー(ゲゲメン)は、4人のクリエイティブ・ディレクターズに加えて、さまざまな専門スタッフたちと、意見、アイデア、方法、スキルなどを互いに交わしあう関係性で創りあげていくことを目指してきました。その集まって学びあう光景こそが、「キャンプ」でもありました。劇場の持つ専門性や場を、社会に拓く新しい試みでもあります。

18名のゲゲメンは、公募から選ばれ、年齢も経験も違うなか、6月から9月までおよそ40日間のクリエイション・ワークショップを通じて、プロフェッショナルの表現や技術に触れながら、ダンス、美術・衣装、音楽、メディア発信に挑戦してきました。ここによくその成果が、ゲゲキャンDance Performance『キャンプ場で作るカレーはどこの家にもない味がする』として、ひとつの作品に出来上がりました。

東京芸術劇場のステージに立つことは、このプログラムの到達点です。しかし、同時にゲゲメンたちにとって、この公演がこれからの大きな始まりになってもらいたいとも思っています。表現することが自分の可能性を押し広げてくれること、共につくる喜びが未知なる出会いを愉しめること、ゲゲキャンでの経験が創造性として、今後さまざまなところで輝くことを切に願っています。

最後になりましたが、本事業の実現にご尽力くださったすべての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

東京芸術劇場



ゲゲキャン
Dance Performance

キャンプ場で作るカレーは どこの家にもない味がする

2024.9.29 Sun 12:00/16:30
東京芸術劇場 シアターウエスト

目次

- 04 ゲゲキャンメンバー
- 06 演出・振付
- 08 美術・衣装
- 09 音楽
- 10 キャンプファイヤーのうた
- 11 クリエイティブ・ディレクターズ
- 12 スタッフ
- 13 40日間のゲゲキャン
- 17 ゲゲキャンとは
- 18 制作日記
- 20 1日体験ワークショップ

GE GE CAMP
Dance Performance

CAMP

2024.9.29 Sun 12:00/16:30
Tokyo Metropolitan Theatre
Theatre West

Contents

- 04 GE GE Members
- 06 Direction and Choreography
- 08 Art and Costume
- 09 Music
- 10 Song for Campfire
- 11 GE GE Creative Directors
- 12 GE GE Staff Members
- 13 Photo Report: Creation Process
- 17 About GE GE CAMP
- 18 Staff Diary
- 20 One Day Workshop

ここは劇場、街から人が集まる名前のない平原。
リュックには何が入ってる？ 全てをここに広げてみよう。
私は誰？ 山道の途中で何かを見失い、
何かを拾う。テントを建てて、明かりを消して、
暗闇に生き物のかたちを想像する。
夜空に線を描き、星に名前を与えよう。



ゲゲキャンメンバー [出演] GE GE Members

Q.みんなにとって『キャンカレ』ってどんな作品?

住んでいる場所やこれまでの経験、得意なことさまざまなゲゲメンたち。2024年4月に公募し、応募総数48名のなかから選ばれた18名です。各人の個性やアイデアが集まり、万華鏡のような作品が出来上がりました。



阿部真夢 Maamu Abe

一人一人が自分と向き合って考えて沢山の人の支えて頂いて出来た今だから出せるパワーと個性の詰まった作品。



石井水葉 Mizuha Ishii

高校生～中学生まで個性豊かな仲間たちが集まった見たことない新感覚の作品です。公演をお楽しみください!



石山天空 Takara Ishiyama

新しいこと、新しい体験。未知。そんなものを求めてここにきました。それを皆さんにも渡したい。



黒田梨路 Lilo Kuroda

みんなの40日間での想いがひとつのカたちになったはらはらわくわくがとまらない! そんな作品です。



栞原瑚香 Koko Kuwahara

非日常的な世界観の連続。私達の情熱と創造力が結集した最高のパフォーマンスを最後までお楽しみ下さい!



東風谷汐珠 Shiju Kochiya

とてつもなく視野の広い作品だと思います!



うた Uta

みんなと4ヶ月かけてじっくり作った、いろんなスパイスや具材が入った、まさにカレーみたいな作品!



小野百合子 Yuriko Ono

キャンプをあらゆる形で表現し、ひとつのことから想像をふくらませて作った作品です!



大橋冬性 Toy Ohashi

見ず知らずの人が集まって作りあげた団結力のある作品です。たくさんの方に体感していただきたいです。



篠田萌々子 Momoko Shinoda

何もかもが剥がされて、関係なくて、生身のままの18人が重なったからこそできたみんなの心の作品。



清水しずく Shizuku Shimizu

自分たちで振りや構成を考えています。ユニークな作品なのでぜひ楽しんでください!



須磨日子 Niko Suma

今回の作品で、私は初めて最初から最後まで自分で終わらせるということがわかりました。



神谷青子 Aoko Kamiya

個性溢れる仲間と一緒に40日間で何も無い0の状態から作り出した私たちの感情が入った作品です!



川原山菜瑚 Nako Kawaharayama

私の好きなシーンはキャンプファイヤーです。残火を眺めているとき、温かい空気になりとても楽しいです!



菊池乃衣 Noi Kikuchi

キャンプのはずがキャンプとは少しかけ離れたものが見えたりして、想像力を働かせてくれる作品です。



富田玉葵 Tamaki Tomita

一人一人が自分を持ち寄って出来たカレー、それがキャンカレです。色々な味を楽しんでください。



藤戸野絵 Noe Fujito

うたおよー おどろよー みんなであそぼうよー



MEITO

みんなの個性があふれ出すワクワクドキドキ? 一度観たらクセになる。次の日食べるカレーのように。

演出・振付 Direction and Choreography

碓井菜央 藤村港平

「キャンプ」をテーマに一つのダンス作品をつくる

自然の中で仲間と過ごす共同生活は、決まったルールはなく誰が何をしても良い。どこにテントをたてるか、どうやって火を起すか、何をして遊ぶか、限りなく自由だ！まずはリュックに詰め込んだ自分だけのキャンプアイテムを広げてみる。一人一人が荷物を広げていくとキャンプ場は想像もしていなかった場所へと生まれ変わる。そして夕飯はもちろんカレーだ！皆が思い思いの具材を鍋に放り込んでいく。野菜の切り方、隠し味、煮込み方、何をとってもそれぞれのやり方があるから、思い通りにはいかない。けれども互いのアイデアが出会い、ぶつかり、溶け合った大きな鍋の中では、ここだけのカレーがぐつぐつと、今まさに完成間近である。



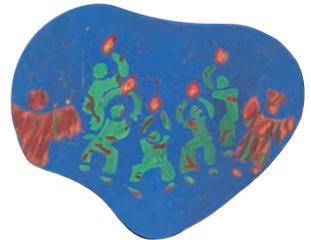
美術・衣装と踊る

どんな服を着るかで気分が変わる様に、美術に触れたり衣装を纏うと身体が変わる。伸びたり縮んだりする布を身体の一部にして動いてみると、動かしているのか、動かされているのか、境界線がぼんやりしてくる。美術や衣装から踊る身体がはじまる。



小道具作り

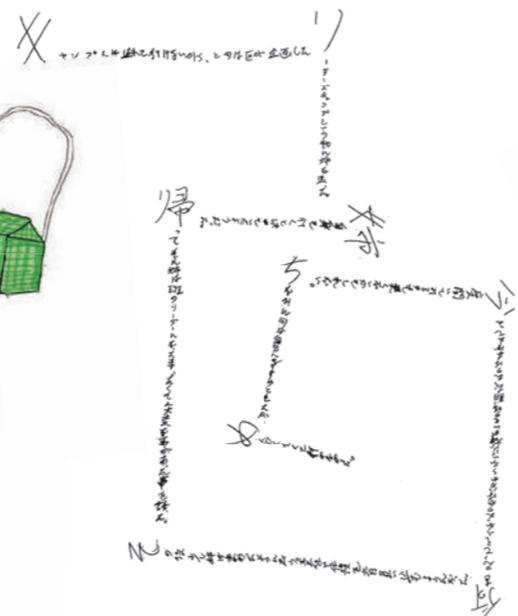
作中に登場する飛び石の小道具。その裏側のデザインはメンバーそれぞれが思う作品のイメージを描くことにした。そのアイデアから思いがけないシーンが生まれることに。



キャンプテキストから振付を作る

それぞれのキャンプ体験やキャンプのイメージを元に自由にテキストを書いてくる。そして、書いてきたテキストから気に入ったワードやフレーズを抽出し、それをムーヴメントやポーズ、テクスチャーなどに変換して組み合わせる事で振付を作る。

ふああ。
隙が透く光る。
ちゅちゅ。
朝日来る。
とびっ。
靴を履き。
じゅわ。
焦げそうなお肉に。
しゃら。
できるだ涼しいな世界に、足を踏み入れる。
じゅわ。
風からも雨からも、恐怖からこえ、守ってくれる殻と捨てる。
ずん。
そのために重く、
ざりり。
少し錆びたドミノに、手をかける。

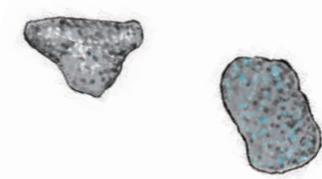


わわわ。
殻が壊れる。
びき。
コンクリート
つたつた。
つま先とかかとがリズムを刻む。
他人から見たらガラガラ
しゃり。
今日はカサ瓶みたい、ホロボロのわくわくも
のず。
リュックに入れたかおぼろの不意も、
ずし。
どんぱに重くても
ぬらぬら。
私は全部、連れて行く。



シーン作り

キャンプをテーマにした作品にはどんなシーンがあったら面白いだろうか？川遊びやキャンプファイヤー、薪集め等のモチーフを一つのダンスシーンにするために空間の演出や振付のアイデアを皆で出し合い吟味する。



キャンプアイテムを持ってくる

キャンプに持っていきたいアイテムを持ち寄り、舞台上に広げてみる。気に入った場所にテントを立てたり、机や椅子を配置して自分たちの基地を作るように、アイテムや身体を自由に配置して舞台空間の変化を作り出す。



美術・衣装 Art and Costume

ひびのこづえ

『キャンカレ』の衣装は18人のメンバーが動く行為の中で生まれ育ちました。こうやって平面に描いたものが、立体になり、身体にまとわれ、パフォーマンスの一部になりました。そして衣装という道具を投げ込んだら、彼らは山を登り、テントを立て、キャンプファイヤーを囲み、18人が森になり、仲間になり、ドラマになりました。衣装は彼らと一体になり空間を作り出し、舞台になりました。



音楽 Music

小野龍一

今回、作曲に先立って2回の音楽ワークショップが行われました。1回目はメンバーが屋外でそれぞれが環境音を採集するという内容で、この採集された音を使用して公演の音楽が作られています。2回目は、キャンプには欠かせないキャンプファイヤーソングの歌詞を作るワークショップ。音符だけが書かれた楽譜にみんなが言葉を吹き込み、ユニークな「キャンプファイヤーのうた」が誕生しました。



キャンプファイヤーのうた

作曲: 小野龍一
作詞: ゲゲキャンメンバー

♩ = 113

1. きよ う が お わ る お ほ し さ ま き ら き ら
2. きよ う が は お じ ま る お ほ し さ ま き ら き ら

5 き た え る た き び よ あ し た な に す る う
た き び を つ け よ きよ う は お ど す る う

9 は や お き し て さ む し さん に お は よ
く も に か く れ た お つ き さ ま に こ ん ばん は

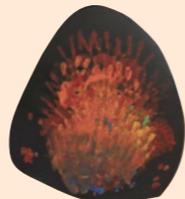
13 わ く わ く ど き ど き だ い ぼ う けん きょう も げ ん き に ワ ン ツー スリー
ま ぶ た を と じ て お ま じ な い あ し た い い ひ に な あ れ

17 ち っ ち っ ち っ ち ち ど っ く ど く ひ か り と け て そ ら に と ぶ

21 と っ つ と っ つ ぎ ら ぎ ら も え ろ も え た キ ャ ン プ フ ァ イ ヤー

25 ひ の か み さ ま が わ た し た ち へ お く り も の

29 ゆ ら ゆ ら ゆ れ る き い ろ い ひ か り を く れ た



クリエイティブ・ディレクターズ GE GE Creative Directors

碓井菜央 Nao Usui [演出・振付]

つくって、こわして、つくって、驚いて……正にそんなクリエーションを過ごす中、作品と共にゲゲメンも日々変化していました。初めての事や出来ない事にも挑戦し、有りのままをさらけ出す。自分の意見を伝えるのも勇気がいる事。誰でも出来る事じゃない。得意な事も、苦手な事も、踊る喜びも、恥じらいも、全てを一つの大きな鍋に投げ入れ、グツグツと煮込んできました。今日はキャンプ場に来た時のようにリラックスして、劇場でのキャンプを味わい楽しんでください!

日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。舞踊、演劇、ミュージカルなど舞台を中心に活動。2017年より振付集団「左 HIDALI」に所属。同年には劇団「ぼるぼっちょ」へ入団。2023年にパフォーマンス団体「チャパリアーナ」を立ち上げ、初の劇場公演が佐藤佐吉賞2023の最優秀演出賞を受賞。



小野龍一 Ryuichi Ono [音楽]

本公演の音楽は様々な「声」によって成立しています。それは実際にメンバーの発する声や、作品全体に散りばめられた環境音(メンバーの一人ひとりが屋外で採集してきた音)であり、それぞれが全く異なるキャラクターを持っているため同時に鳴らしたとしても合唱のように美しいハーモニーが聞こえてくるわけではありません。しかし、どんな音も常に振動しており、それらはやがて共振し空気中にグルーブをつくり出します。予定調和的な響きよりもずっと魅惑的なそのリズムから、『キャンカレ』の音楽は生まれました。

音楽家。1994年東京生まれ。東京藝術大学の作曲科を卒業後、同大学院美術研究科を修了。空間における音楽/音と人の関係性の「変奏」をコンセプトに、現代音楽・実験音楽のフィールドから美術やパフォーマンスなど領域横断的な制作を行う。



ひびのこづえ Kodue Hibino [美術・衣装]

自分の10代ってどんなだった? 学校と家と自分だけのきゆうくつな世界の中で、空想が救いだった。そんな自分に扉を開けと言っても、そんなに簡単ではなかった。ゲゲキャンの様に年齢がすぐ違う仲間に出会って、半分大人になり損ねているクリエイターとフランクに関わったら、どうだったかな。ゲゲキャンの舞台は答えではないけど、観る人と踊る人の心が震えたら良いな。

静岡県生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなどその発表の場は多岐にわたる。Eテレ「にほんごであそぼ」セット衣装担当。ダンスパフォーマンスを各地で展開中。能登半島地震・珠洲応援ダンスプロジェクト活動中。



藤村港平 Kohei Fujimura [演出・振付]

「キャンプ」は元々、ラテン語の「campus」が語源で、「平原、広場、開かれた野原」という意味がある。ゲゲキャンもまたキャンプ場みたいなもので、はじめは会議室で生まれただけの殺風景な平原だった。しかし、年齢や立場の異なる人々が集まり、それぞれが自分のやりたい事を見つけ、自由に創造性を発揮していくと平原には徐々に景色が広がっていった。そして今日、舞台上で彼等の身体が踊り出す時、私たち観客はその景色の中へと巻き込まれ、飲み込まれていくのだ。ワクワクするね。

東京、横浜を拠点に舞踊家として活動。2020年以降「身体は如何にして“舞踊する身体”として再構築されるのか」という問いを出発点にリサーチや実験的なパフォーマンスを開始。また、この問いの延長として「ダンスと音楽の関係性」に着目することからダンスの発生を問うことを目的とした作品の制作を行う。筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。2024年度 DaBYレジデンスアーティスト。



スタッフ

GE GE Staff Members

演出・振付：碓井菜央 藤村港平

美術・衣装：ひびのこづえ

音楽：小野龍一

ステージマネジメント：

奥野さおり*(チーフ) 渡邊武彦* 松島千裕* 鈴木千晴

照明デザイン：新島啓介*

音響デザイン・オペレート：行方太一*

照明チーフ：安藤達朗*

照明オペレート：井上武憲*

舞台技術統括：安田武司*

リハーサルアシスタント：中嶋美虹 半山ゆきの

衣装アシスタント：山本明日香(CODUDUKA)

衣装製作：CODUDUKA 松田さつき

衣装ワードローブ：井上美佐子

電飾：新光企画株式会社

劇場技術スタッフ：

舞台：國瀧涼* 須賀裕幸* 榎木涼子*

照明：山川剛* 吉田充* 皆越萌* 志賀正*

音響：加羽沢隆行* 田村悠記* 中河原美紗* 石崎潔*

アートディレクター：山田悠太郎

映像ディレクター：佐藤瞭太郎

撮影マネージャー：齋藤千春

撮影：安藤美由 田中くるみ

WEBコーダー：海老原瑞穂

コミュニケーション・コーディネーター：阿部七海

メディアディレクター／プロジェクト監修：和田信太郎

プロデューサー：杉山幸代*

制作：福嶋芙美* 相場未江 河野遥

広報：川崎映子* 久保風竹* 山口彩* 桑原佳菜子*

票券：奥村和代*

リラックス・パフォーマンス対応：三谷淳* 多田和代*

疋田弥紅* 黒木裕太* 佐藤彩奈

* = 東京芸術劇場

主催：

東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

協力：東京芸術祭実行委員会

企画制作：東京芸術劇場

[東京芸術劇場]

芸術監督：野田秀樹

館長：荻田伍

副館長：鈴木順子

管理課長：本田麻子

舞台管理担当課長：安田武司

制作担当課長：内藤美奈子

運営担当課長：大島千枝

舞台技術：石丸耕一 新島啓介 奥野さおり 井上武憲

渡邊武彦 松島千裕 安藤達朗 行方太一 石崎潔

制作：杉山幸代 福嶋芙美

広報営業：川崎映子 前田圭蔵 久保風竹 奥村和代

井上由姫 山口彩 丸田えひめ 桑原佳菜子 浜辺響

穴戸円

経理：萩原佑美 名雪淳一郎



2024 NEXT CREATION PROGRAM







ゲゲキャンとは About GE GE CAMP

「ゲゲキャン(正式名称 中高生のためのクリエイティブCAMP)」とは、東京都と東京芸術劇場が2024年より実施する次世代のための共創プログラムです。劇場をひらき、国内外で活躍するアーティストやクリエイター、舞台を支える専門スタッフと共に創造活動の場を立ち上げていきます。



2024年度のゲゲキャン

1. クリエイション・ワークショップ「ダンス作品をつくろう」

12～18歳(中学1年～高校3年相当)が舞台のプロフェッショナルたちと対話や協働を重ね、およそ40日間にわたってダンス作品をつくるプログラムです。今年度は、碓井菜央、小野龍一、ひびのこづえ、藤村港平の4名のアーティストをクリエイティブ・ディレクターに迎え、衣装や音楽、小道具をつくったり、ソーシャルメディアで創作過程を発信するなど、さまざまなワークショップを通して実践的に取り組みました。

2. 1日体験ワークショップ

12～18歳(中学1年～高校3年相当)の次世代を対象にした、1日単位のワークショップ・プログラムです。普段は見ることができない舞台の裏側を体験し、さまざまなプロフェッショナルに学び、舞台芸術や劇場を支える仕事を垣間見る機会を提供します。2024年度は劇場ツアー、演劇、舞台技術、ダンスの4つのワークショップを開催しました。

ゲゲキャン GE GE CAMP

クリエイション・ワークショップ

- ・ダンス作品をつくろう



1日体験ワークショップ

- ・劇場ツアー
- ・演劇ワークショップ
- ・舞台技術ワークショップ
- ・ダンスワークショップ



「ネクスト・クリエイション・プログラム」とは

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、今年度より、子供たちが自らの興味関心がある芸術文化について、より深くより高いレベルで学ぶことができる「ネクスト・クリエイション・プログラム」事業を開始します。クリエイションの現場に入り、第一線で活躍するプロフェッショナルから指導が受けられる良質なプログラムを提供し、子供たちの個性に寄り添いながら豊かな才能の開花を後押しすることを目指しています。



制作日記 Staff Diary

Text by 福嶋英美(東京芸術劇場 ゲゲキャン制作スタッフ)

「クリエイション・ワークショップ」の約40日間を、制作スタッフ
目線でつづった日記です。

2024年
4~6月

ゲゲメン決定

メンバー募集。「全然集まらなかったらどうしよう」と不安を抱えつつも、必死に広報活動。しかし、予想を大幅に超える48名の応募が集まり、スタッフみんなで歓喜! 3時間をかけた白熱の選考会を経て、現メンバーが決定しました。

6.22 ゲゲキャン・クリエイション、始動

いよいよ、初日! まずはオリエンテーションから。シン……と静まる空気のなかで、緊張の「はじめまして」。メンバー、クリエイティブ・ディレクターズに加えて、20名以上のスタッフも一堂に会しました。早速、ダンスワークショップがスタート。メンバーには、ダンスが得意な人も、全く初めての人もいます。最初は緊張していた彼らも、身体を動かすうちに、徐々に表情がほぐれていきました。



7.7 フィールドレコーディング

音楽ワークショップでは、耳を澄ませるエクササイズをした後、録音機器を持って会場の外へ。おのおの、気になる「音」を採取しました。ダンスワークショップでは、シアターゲームやエチュードをしたり、いろいろな音楽リズムを体験したり。そして人との関係性、空間の中での見え方、自分の立場(ポジション)も考えながらのグループワーク。作戦会議をして、みんなでシーンを作りました。



7.13 作品テーマは「キャンプ」

ディレクターズから、今回の公演のテーマは「キャンプ」であると発表。メンバー自身が書いた「キャンプストーリー」から抽出した要素と、これまでにやった動きを組み合わせ、自分だけのソロダンスをつくりました。後半は、音楽ワークショップ。班に分かれて「キャンプファイヤーのうた」の歌詞を制作。ユニークで素敵な歌が完成しました。



7.14 劇場を下見する

2か月後に立つ劇場、シアターウエストをみんなで見学。ステージや舞台機構の説明を聞き、舞台裏を歩くメンバーたちの目はキラキラ、大興奮!



7.15 ビジュアル撮影、衣装づくり

公演チラシのビジュアルに使用する写真を撮影。大きな衣装「山」をみんなで膨らませ、走って、飛び跳ねて。いろんなパターンを試します。この日、本番で着る「森のつなぎ」に初めて袖を通したメンバーたち。だんだん舞台上に立つ実感が湧いてきたかな……? 衣装づくりワークショップでは、みんなの個性が炸裂! 世界に一つだけのTシャツができました。



8.1 地獄の(?)集中CAMP

今日から約2週間の集中クリエイティブCAMP。いよいよ本格的に、公演に向けた作品づくりが始まります。新しいスタッフたちも合流し、稽古場は一層賑やかに。作品のプロットをもとに、みんなでシーンごとの振付を作っていきます。制作としては、みんな頑張り屋だけに、とにかく熱中症とケガが心配! ハラハラしながら稽古を見守ります。



8.10 シーンがどんどん出来てくる

メンバーたちがアイデアを出し合い、ソロ、デュオ、グループなど、日々いろんなシーンが生まれ、また変化していきます。作品の輪郭が、徐々に浮かび上がってきました。毎日、動画を撮ってはメンバーに共有していますが、その再生回数で、みんなが熱心に復習しているのが分かります。



8.17 通し稽古、メディア発信レクチャー

衣装をつけての通し稽古。最初から最後まで、ついにシーンが繋がりました! 本番まであと1か月と少し。メディアチームスタッフから、制作中のチラシの説明と、SNSでの発信についてのレクチャーも行われました。自分たちで作る公演だからこそ、発信、宣伝も自分たちでしていきます。



8.25 小道具づくり、チケット発売開始!

絵の具を使って、みんなで小道具の「飛び石」を作りました。イラスト、抽象画、手型……ここでもやはり、メンバーの個性が光ります。



9.1 3歩進んで2歩下がる?

完成したチラシがメンバーに配られ、チケットの発売もスタート。公演本番に向けて、準備が急ピッチで進みます。一方で、集中CAMPぶりの通し稽古の後には、落ち込むメンバーの姿も。右肩上がりに一直線! とはいかないのが稽古。まだまだ時間はあるから、焦らずいこう。



9.7 ゴールをみんなで共有する

通し稽古の後で、みんなでじっくりフィードバック大会。最初の頃と比べて、みんな考えを言語化するのが上手になってきたなあ、と感心。そして、曖昧だった箇所やタイミングがクリアになるにつれ、「楽しくなってきた!」の声。これから本番まで、ひとつひとつの動きやシーンの精度を上げていきます。



9.14 もうすぐ本番!

チケットがほぼ完売との知らせ。これは正直、予想していなかった! 嬉しい悲鳴です。さあ、本番まであと2週間。まだまだ作品は進化しそう。メンバーの表情も、きりりと引き締まってきました。



9.29 キャンプ場で作るカレーはどこの家にもない味がする

ゲゲキャン Dance Performance

1日体験ワークショップ One Day Workshop

ゲゲキャンでは、長期の「クリエイション・ワークショップ」のほかに、気軽に参加できる「1日体験ワークショップ」も実施しています。次世代の若者たちが、舞台の裏側や舞台を支える仕事をさまざまなプロフェッショナルに学び、舞台芸術や劇場の魅力を再発見することを目的にしています。2024年度は、4つのプログラムを開催しました。

劇場ツアー コンサートホールを歩こう

案内：東京芸術劇場 ツアーガイド
[中野英行 中村薫 鈴木麻美 中村一規 関根好香]

2024年6月22日(土) 7月13日(土) 8月24日(土)
各日17:00~18:00/定員各24名
オーケストラ公演後のコンサートホールを、ツアーガイドの秘話を聞きながらめぐる、1時間の濃密ツアー。普段は入れないホールの裏側を覗いたり、間近で巨大なオルガンを見上げたり、点在するアート作品に触れたり。建物の内外を歩き回るので、音楽好きのみならず、建築に関心のある方にも好評でした。

〈参加者の声〉
・裏方の照明器具を拝見でき、初めての体験だったので、とても新鮮で印象深かったです。
・お二人のトークがすごく面白くて一瞬、あっという間のツアーでした…まだ聞いていられる!!!
・建築について学びたいと思っているので、関係した用語や建築家さんのこだわりを知れてうれしかったです。



演劇ワークショップ 世界と趣向 — 歌舞伎作者になってみよう!

講師：木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)
稲垣貴俊(木ノ下歌舞伎補綴・企画員、編集者)

2024年7月23日(火) 13:00~17:30/定員20名
江戸時代の歌舞伎作者の作り方で、脚本づくりに挑戦。現代の脚本と違うのは、まずは現代で言う童話や映画など、みんなが知っている作品から「世界(設定、人物等)」を借りてくること。そこに「趣向(自分だけのアイデア)」をかけ合わせ、ストーリー作りへ。十人十色、参加者の個性が際立つ物語ができました。

〈参加者の声〉
・物語に対して新しい見方ができた。昔の人は、こういう感じにストーリーを作っているんだなと分かった。
・自分で考えるのも楽しかったけれど、他の人が考えたことを聞くのも同じくらい楽しくて、時間が過ぎるのが早く感じました!
・文章を考えられない!と悩んでいる真っ最中なので、もう少し気楽に考えようかなと思えるようになりました。



舞台技術ワークショップ

講師：東京芸術劇場 舞台技術職員 [安田武司 石丸耕一
新島啓介 奥野さおり 井上武憲 渡邊武彦
松島千裕 安藤達朗 行方太一 石崎潔]

2024年8月7日(水) 14:00~17:30/定員48名
舞台作品を支える舞台技術の仕事、「舞台」「照明」「音響」の3つの分野に分けて、実演を交えながら紹介。参加者の半数近くが舞台技術者として働くことに関心があったせいか、どうして今の仕事をしているのか、やりがいやキャリアについてなど、具体的な質問も多く寄せられました。

〈参加者の声〉
・文理選択や大学選びの時期で迷っていたので、とても参考になりました。音響や照明などに携わるには専門学校や芸術系の大学に行かなくてはいけないのかなと思っていたので、いろんな道があると知れて良かったです。
・もっと堅苦しく話を聞かただけの会だと思っていましたが、みなさん楽しくお仕事されているんだなと感じました! 静岡からはるばる上京した甲斐がありました!
・役者が動かなくても、照明だけで感情が表現できることが分かって面白かった。



ダンスワークショップ 「動き」から「作品」へ — 構成・演出を体験してみよう

講師：Chikako Takemoto(ダンサー、ムーブメントディレクター)

2024年8月20日(火) 14:00~17:00/定員20名
ダンスの経験ジャンルも、年数もばらばらのメンバーが参加。初対面ながらグループを組み、アイデアを出してシーンを作ります。今回のゴールは、作ったダンスをスマホで撮影すること。映像映える画角や構成を考えながら、わずか2時間で、みんなで2分半のダンス作品を創り上げました。

〈参加者の声〉
・初めての方と一緒にやるのは最初は緊張したけど、最後には楽しく作品作りができました。とても貴重な経験をありがとうございました。
・これからの自分のためになったと思います! これからも何か関わる機会があったらよろしくお願いします!!

